

## 平成 30 年 仕事始め式あいさつ

皆さん、あけましておめでとうございます。

それぞれご家族と輝かしい新春を迎えられたことと心からお喜び申し上げます。

いよいよ2018年、平成30年が始まりました。

本年も皆さん、どうぞよろしく願いいたします。

年頭にあたりまして、私に残された任期は1年であり、町政運営に全力で取り組む決意を新たにしたところであります。

また、職員の皆さんには、昨年、町政推進のため、それぞれの分野で、ご尽力されことに、厚くお礼申し上げます。

平成30年4月から「東栄町まちづくり基本条例」が施行されます。今まで以上に住民主体のまちづくりを推進していきます。この条例によるまちづくりの理念は、「第6次東栄町総合計画」や「東栄町まち・ひと・しごと総合戦略」により着実に進め、協働のまちづくりを行ってまいります。

2つの重点的プロジェクトを中心に進めてまいりたいと考えます。

特に町民の暮らしを支えるプロジェクトでは、「地域包括ケアシステムの構築」医療・福祉・介護が一体的に提供できるように検討して

まいります。その一環として、東栄病院をこの4月1日から公営化し、平成32年10月を目標に新たな医療センター・保健福祉センターの整備に向けて持続可能な医療体制を確立してまいります。

また、町内12地区に整備した高齢者等生活支援拠点施設「おいでん家」を高齢者のみではなく、すべての地域住民の方々の絆を再構築できる多機能拠点施設となるよう取り組んでまいります。

そして、子育て支援では2園ある保育園を1園化し、新たに新保育園を整備するとともに、延長保育等の保育サービスの体制を充実します。また、放課後児童クラブの受け入れ時間を延長するなど、子育て環境の充実を図ります。

2つ目の交流・移住・定住プロジェクトでは、昨年4月1日にスタートした東栄町観光まちづくり協会と連携し、全国清流めぐり利き鮎会でグランプリとなった振草川の鮎の活用や東栄町の若鶏など、経済の地域内循環の仕組みづくりを推進します。また「なおり」を核としたビューティーツーリズムの拡大、花祭会館の展示内容の充実なども進めてまいります。

定住促進事業の推進では、引き続き空き家バンクを充実させ、移住希望者とのマッチングを積極的に図ってまいります。集落支援施策については、集落支援員を配置しモデル事業として、取り組んでまい

ります。最後に、2年半にわたって町民等により作られた「東栄町まちづくり基本条例」については、実行委員会組織により条例理念を広めるシンポジウムを開催し、条例の理念によるまちづくりを推進してまいります。

我々の取り組みは、去年より今年が後退してはいけません。町民の皆さんに笑顔でいていただくためにも、我々が努力をしなければいけないわけで、それが私たちの仕事ではないでしょうか。そして私たちが働くことによって、町民の皆さんと我々が互いに「ありがとう」と言える環境を作らなければいけないと思っています。

課題は山積みで、厳しい財政状況でもありますが、まずは一つ一つ前進できるよう、みんなで力を合わせ、住みよいふるさとづくりに邁進してまいりましょう。厳しい時代にあって必ずや東栄町が評価され、「住みよいまちだね」「このまちなら住もう」と思っただけ、選ばれるまちになることを願って、期待して、信じて、みんなで力を合わせて、まちづくりを進めていきたいと考えております。

そのためにも、皆さん一人ひとりの力が発揮されなければ、一丸となった取り組みはできません。町の課題を克服するのも町職員一人ひとりの意識や努力によります。そして、何よりも重要な課題は全庁一丸となって取り組んでいかななくてはならないものであります。

非常に難しい世の中であります。でも明るい兆しのある新年であります。町民も我々職員もみんなで力を合わせて、素晴らしい年としたいと思います。

何をおいても健康が一番です。私もそうですが、健康には十分に留意され、新たなまちづくりのために、一緒に頑張ってまいりましょう。

今年一年よろしくお願いいたします。

最後になりますが、やむなく本年3月末をもって、役場を退職される方、そして東栄町を離れる方もおりますが、いっしょに働いた仲間たちであります。非常に残念ではありますが、この職場を離れても、そして東栄町から出られる方も、どうか今後も東栄町の応援団として、少しでも気にかけていただき、応援していただければ大変うれしく思います。

私もそれぞれの皆さんの活躍を陰ながら全力で応援させていただきます。ぜひ頑張ってください。

以上で、年頭のあいさつとさせていただきます。

平成30年1月4日

東栄町長 村上孝治